

## 発掘成果をふりかえって 1999

(財)京都市埋蔵文化財研究所・京都市考古資料館

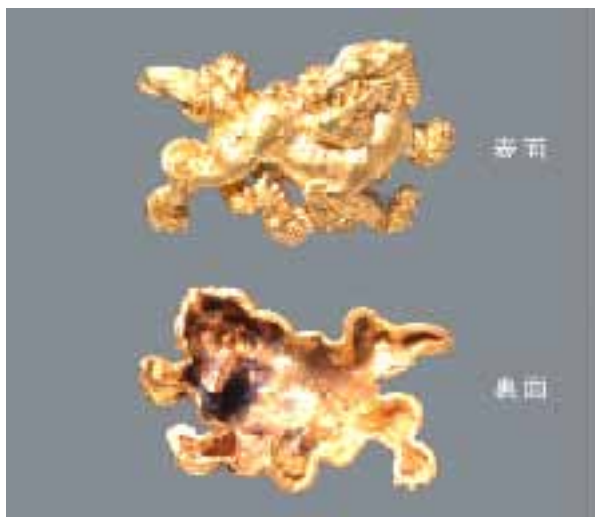
京都市は、埋蔵文化財の宝庫です。1999年も約40件の発掘調査を実施し、大きな成果をあげることができました。

今年の調査で特に注目されるのは、中臣遺跡で発見された古墳時代の墓と集落、伏見城跡の町屋と

道路、御所東方公家屋敷群跡でみつけた幕末の公家屋敷の能舞台の跡があります。また、大藪遺跡では、中世の鏡の鋳型がみつかっています。それでは、時代をさかのぼって、おもな成果を紹介しましょう。



調査地点



1 京都御所東方公家屋敷群跡出土の目貫金具 上京区京都御苑  
江戸時代の土取り穴から出土した金の獅子。刀身を柄に固定する目釘を飾っていたもので、大きさは2.7cm×1.7cmであった。



2 京都御所東方公家屋敷群跡 上京区京都御苑  
能舞台の下に音響効果を高めるため、7個の信楽焼の甕が口を傾けて据えられている。公家屋敷で能舞台がつくられるのは珍しい。



3 名勝滴翠園 下京区堀川通花屋町下る本願寺門前町  
西本願寺滴翠園の滄浪池と旧石組み。滝石の一部に組み込まれた花崗岩の導水路から池に水を引き入っていた。



4 伏見城跡 伏見区桃山町立売  
立売通の路面とそれに面した桃山時代の礎石建ちの町屋を6棟検出した。町屋は慶長十年(1605)の火災で焼失している。



**5 大藪遺跡** 南区久世大藪町  
 土壌から鏡の鋳型が8枚重なった状態で出土した。伴出した土器から14世紀のものと考えられる。



**6 平安京左京八条二坊十四町** 下京区油小路通塩小路下る東油小路町室町時代の完全な犬の骨が折り重なって出土した。この他にも多量の犬の骨を埋めた土壌がまとまって9基あった。



**7 平安京左京六条三坊八町** 下京区新町通松原下る富永町ほか  
 床面に石を敷きつめた倉庫跡。壁には板を張った痕跡が残る。ここでは他にも鎌倉や室町時代の同様の遺構が7基発見された。



**8 中久世遺跡** 南区久世中久世町四丁目  
 耕作土の直下で奈良時代の掘立柱建物跡が見つかった。この時期の集落の調査例は中久世遺跡では少なく、貴重な資料である。



**9 中臣遺跡** 山科区勸修寺東栗栖野町ほか  
 6世紀の方墳と土壙墓、7世紀の集落を発見した。6世紀の古墳は初めての発見である。墳丘は削平され、周溝だけが残っている。



**10 中臣遺跡** 山科区勸修寺東栗栖野町ほか  
 写真9の古墳の周溝から出土した土器。完全な形の須恵器が整然と並べられた状態で見つかった。